

平成27年 9月 4日  
 湯沢河川国道事務所  
 秋田河川国道事務所  
 玉川ダム管理所  
 成瀬ダム工事事務所

## 雄物川で3年ぶりの渇水 利水者の節水協力で乗り切る

～玉川ダムからの連携補給で影響回避～  
 ～もしも成瀬ダムがあれば十分な水量を確保できたと推測～

雄物川では、この春の雪解けが早く少雨傾向で、6月から基準流量（※1）を割り込みました。この状態は一時的に回復した時期もありますが、8月末までの約3ヶ月に渡り渇水傾向が続きました。

このため、土地改良区では各農家に節水の呼びかけを行い、番水制等の対策がとられました。

玉川ダムを主とした玉川水系ダム群（※2）では、用水確保及び椿川地点での流水の正常な機能の維持のための補給を行い効果を発揮しました。

（玉川ダム記者発表は、[http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/kisya/saigai/images/57676\\_1.pdf](http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/kisya/saigai/images/57676_1.pdf) 参照）

しかし、玉川合流点から上流部、特に雄勝・平鹿地域での渇水が深刻なものでした。今回の渇水で、もしも成瀬ダムが完成していれば、安定的な水の供給がなされ、十分な取水、良好な河川環境の保全が図られたものと推測されます。

- （※1）基準流量 … 椿川地点：正常流量 80 m<sup>3</sup>/s  
 岩館地点：過去5カ年平均渇水流量 3.35 m<sup>3</sup>/s  
 刈和野橋地点：過去5カ年平均渇水流量 97.83 m<sup>3</sup>/s  
 長野地点：過去5カ年平均渇水流量 25.09 m<sup>3</sup>/s  
 岩崎橋地点：過去5カ年平均渇水流量 2.66 m<sup>3</sup>/s

（※2）玉川ダムを主とした玉川水系ダム群 … 玉川ダム、鎧畑ダム、田沢湖、夏瀬ダム、神代ダム

発表記者会：秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社湯沢支局・大曲支局

### 問い合わせ先

東北地方整備局 湯沢河川国道事務所  
 湯沢市関口字上寺沢64-2  
 TEL 0183-73-3174（代表）  
 副所長（河川担当） さとう のりお 徳 男（内線204）  
 河川管理課長 はせがわ まさと 長谷川 優 人（内線331）

東北地方整備局 秋田河川国道事務所  
 秋田市山王一丁目10-29  
 TEL 018-823-4167（代表）  
 副所長（河川担当） なかがわ ひろき 中 川 博 樹（内線204）  
 河川管理課長 ななお しげあき 七 尾 重 亮（内線331）

東北地方整備局 玉川ダム管理所  
 仙北市田沢湖玉川字下水無92  
 TEL 0187-49-2170（代表）  
 管理所長 たかはし じゅん 高 橋 淳（内線201）  
 管理係長 おの かず 小 野 一（内線332）

東北地方整備局 成瀬ダム工事事務所  
 湯沢市関口字上寺沢64-2  
 TEL 0183-73-4026（代表）  
 副所長（技術担当） はなかご としゆき 花 籠 利 行（内線204）  
 調査設計課長 みうら たけし 三 浦 猛（内線351）

# 平成27年 雄物川渇水の概要(速報版) H27.9.4



- 今年の春は雪解けが早まり、また、雨が少なかったことから、6月初旬から流量が減少し、基準流量(※1)を割り込みました。
- 降雨により一時的に流量回復した期間はありましたが、8月末まで約3ヶ月の長期にわたって渇水傾向が続きました。
- 玉川ダムを主とした玉川水系ダム群(※2)では、用水の確保及び榑川地点での流水の正常な機能維持のための補給を行い、効果をあげました。

(詳細は、[http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/kisya/saigai/images/57676\\_1.pdf](http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/kisya/saigai/images/57676_1.pdf))

(※1) 基準流量とは、榑川地点: 80m<sup>3</sup>/s (正常流量)

岩館地点: 3.35m<sup>3</sup>/s、刈和野橋地点: 97.83m<sup>3</sup>/s

長野地点: 25.09m<sup>3</sup>/s、岩崎橋地点: 2.66m<sup>3</sup>/s

(4地点は過去5カ年平均渇水流量)

(※2) 玉川ダムを主とした玉川水系ダム群とは、玉川ダム、鎧畑ダム、田沢湖、夏瀬ダム、神代ダム

## 【渇水への対応・河川の状況】

● かんがいのための取水は、許可取水量に対して、上流部は約4~6割程度にとどまり、湯沢市山田地区では6月19日から8月31日まで74日間で番水制を実施。

(計5地区で番水制を実施)

● さらに番水制のみならず、各土地改良区では、各農家に対し渇水状況説明のうえで節水を呼びかけ、取水量の節水(5%~20%)に協力。

● 上水道では、節水の広報(チラシ配布等)を実施。

● 雄物川は河川の流量の減少に伴い、河川水位が低下し、一部では河底の露出が発生、川幅が狭くなり、水深も浅くなったが、瀬切れ等は確認されませんでした。

## 【渇水対応会議開催の状況】

| 月日    | 渇水対応会議等開催状況                               |
|-------|---|
| 6月17日 | 第1回雄物川水系渇水情報連絡会開催(定例会)                    |
| 7月9日  | 第2回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)                     |
| 7月9日  | 雄物川水系渇水対策支部(注意体制)設置(16時)                  |
| 7月13日 | 玉川水系ダム及び田沢湖の運用管理ルール(案)の「レベル1」移行(貯水率70%到達) |
| 7月16日 | 第3回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)                     |
| 7月22日 | 玉川水系ダム及び田沢湖の運用管理ルール(案)の「レベル2」移行(貯水率50%到達) |
| 7月29日 | 玉川ダム及び田沢湖の運用管理に関する調整会議(臨時)                |
| 8月7日  | 第4回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)                     |
| 8月31日 | 雄物川水系渇水対策支部(注意体制)解除(16時)                  |

※1 渇水情報連絡会: 利水者及び河川管理者による情報交換や渇水調整を行う会議

※2 玉川ダム及び田沢湖運用管理調整会議: 田沢湖の水使用に関する関係機関の調整を行う会議

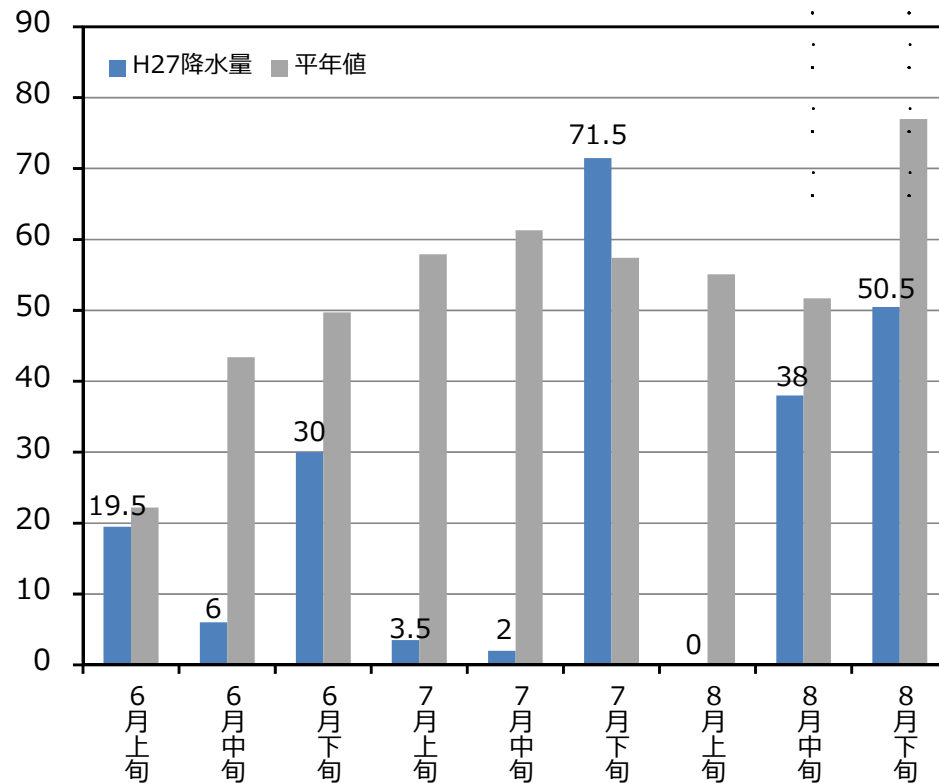
# 雄物川上流の降水量

○東北北部は、6月26日に梅雨入り、7月29日に梅雨明けをしました。

(平年は、梅雨入り6月14日、梅雨明け7月28日)

○秋田県南部は梅雨入り後も雨が少ない状態が続き、6月下旬の低気圧、7月下旬の梅雨前線による降雨で一時的に降水量の多い期間もありましたが、6～8月の降水量は横手で平年の46%、湯沢で59%でした。

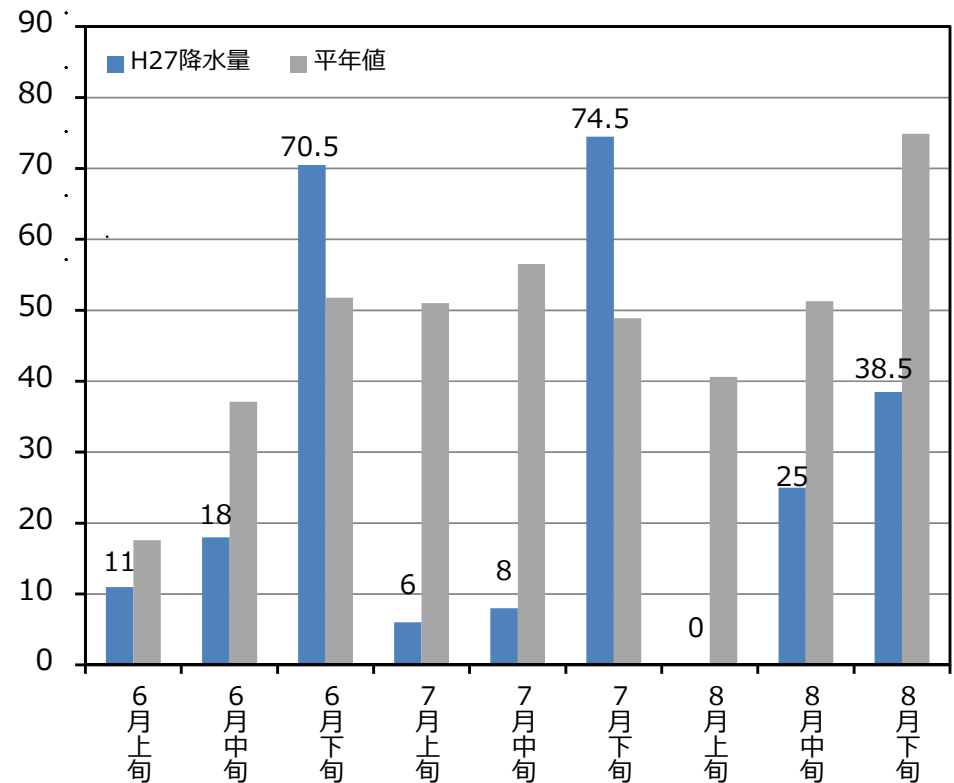
## 横手の降水量



6～8月の降水量

平年の **46%**

## 湯沢の降水量



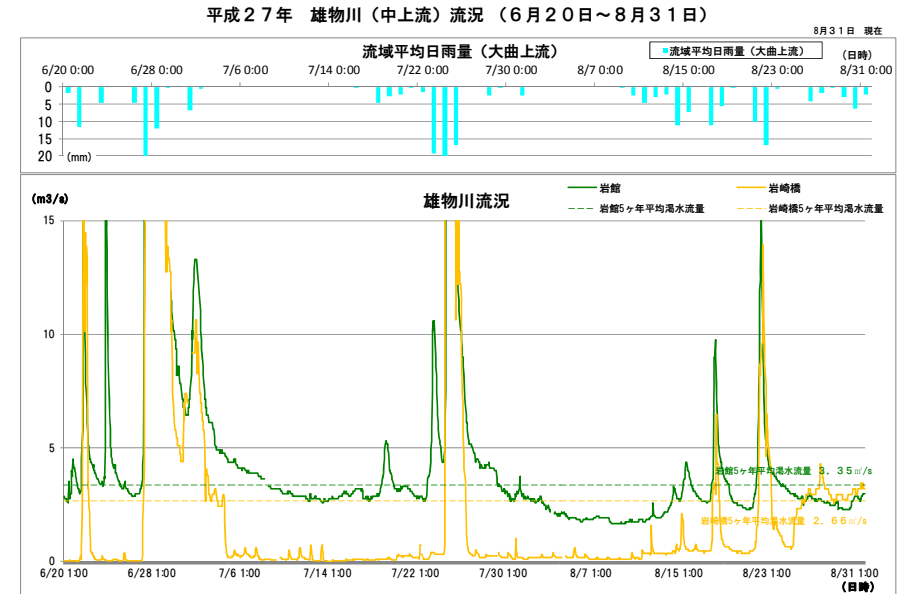
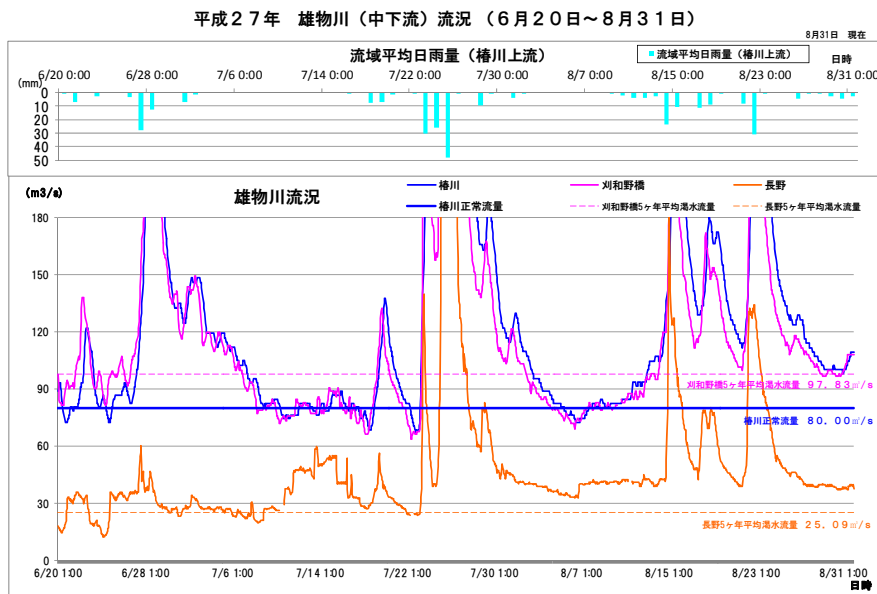
6～8月の降水量

平年の **59%**

# 雄物川渇水基準地点の河川流況及び河川状況

雄物川上流の岩館地点(湯沢市)や皆瀬川の岩崎橋地点(横手市)の流況は、6月初旬から8月末まで基準流量(※)を下回りました。また、雄物川下流の刈和野橋地点でも6月下旬から8月下旬にかけて、降雨により一時的に流量が回復する期間もありましたが、6月下旬から8月末まで断続的に基準流量を下回りました。

樺川地点では、基準流量を概ね確保されており、玉川ダムを主とした玉川水系ダム群からの利水補給により流況の安定に寄与しています。(※基準流量: 渇水対策支部設置の目安となる流量)



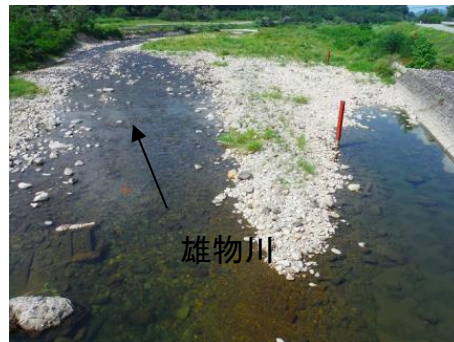
## 《河川巡視時撮影写真(渇水状況)》

※流量は暫定値であり、確定値ではありません。

岩崎橋地点付近(H27.8.10)



岩館地点付近(H27.8.10)



樺川地点付近(H27.8.10)



|                          | H元年<br>(4/1~10/31) | H24年<br>(4/1~10/31) | H27<br>(4/1~8/31) |
|--------------------------|--------------------|---------------------|-------------------|
| 樺川地点で<br>正常流量を<br>下回った日数 | 56日                | 26日                 | 10日               |

河川は平常時と比較して、川幅も狭く、水深も浅くなっており、一部では河底が露出している場所もありました。

毎日の巡視により、瀬切れ、魚類のへい死、濁り、変色、悪臭などの異常は確認されませんでした。



# 成瀬ダムが完成していた場合の効果予測(速報値)

- 岩崎橋地点で水量が減少したことから、一部の土地改良区では番水による対策がとられました。
- 過去にも昭和53、59、60年、平成元、6、11、18、19、23、24年など頻発して渇水が発生し、その度に番水制を余儀なくされてきました。
- 今回の渇水においては、成瀬ダムがあった場合、ダムからの補給により十分な流量が確保されるため、37日間実施された番水が解消されるほか、良好な河川環境が保たれたものと推測されます。

## ■成瀬頭首工

頭首工下流の状況

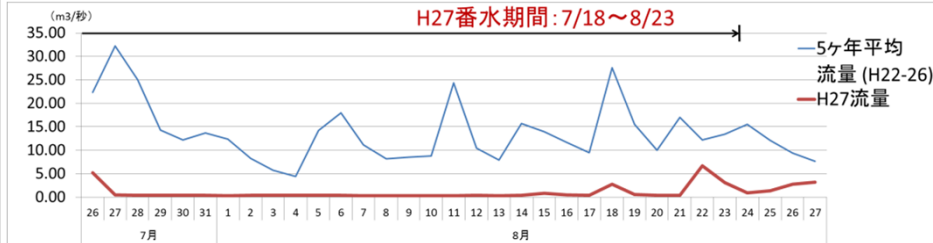


## ■岩崎橋地点

### ■実績流況図(m<sup>3</sup>/秒)

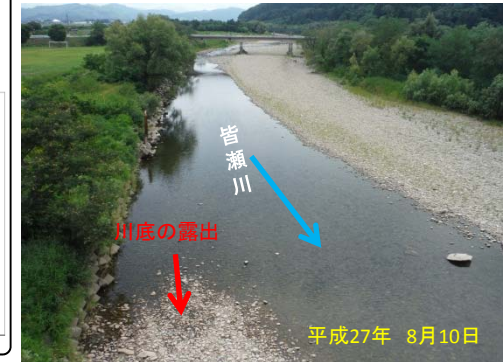
番水を37日間実施

- 渇水対策支部設置
  - ・H27. 7. 9~H27. 8. 31
- 番水
  - (平鹿平野地区の成瀬頭首工掛かりの一部受益地)
  - ・H27. 7. 18~H27. 8. 23



## ■新岩崎橋より上流

今回渇水時: 0.1m<sup>3</sup>/秒 流下状況



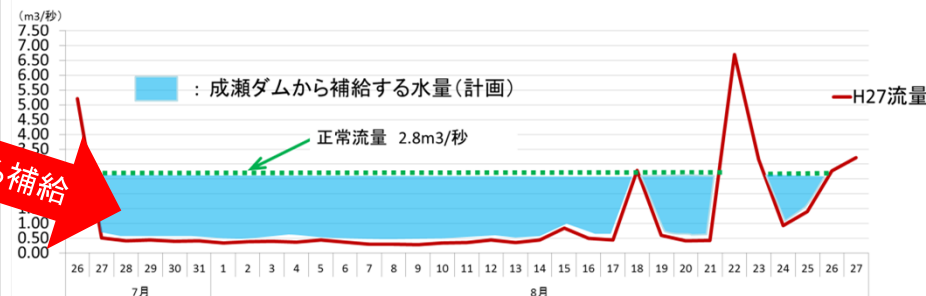
成瀬ダムが完成していたならば...

## ■成瀬ダム完成イメージ図



### ■想定補給図(m<sup>3</sup>/秒)

番水日数37日 → 0日 となります



※正常流量とは、流水の清潔の保持、魚類が生息するために必要な水深を確保する流量などで、適正な河川管理のために定めるものです。岩崎橋地点における正常流量は2.8m<sup>3</sup>/秒としています。

流況改善

成瀬ダム完成後: 渇水時でも2.8m<sup>3</sup>/秒以上を確保し、流況が改善されます



※流量は暫定値であり、確定値ではありません。